Laser Compass

絶滅危惧種?

緑川 克美†

Endangered Species?

Katsumi MIDORIKAWA†

最近，若い人達の理科離れが加速している．いわゆる研究者というのではなく，技術系を目指す若者が減少しているのである．特に，大学の工学部の定員が急速に減少し，電気・電子系に至ってはその中でも人気が最低であるそうだ．少子化が加速する中で，学科の人気は時代とともに変遷するなどと高を括っていては手遅れになってしまうだろう．

私事で恐縮であるが，パソコン用のプリンターが壊れたので，修理しようかと思って近所の量販店に問い合わせたところ，最低でも9千円かかるとのことで，それならば1万円程度でもっと良い機種が購入できるとのことである．私が驚いたのは，つい1年前までは最新の機種であったのがこの価格である．これでは，メーカーの儲けなど全くないのではないかと人事ながら心配してしまう．一方，携帯電話にいたっては，機種変更は無料であった．もちろん，消耗品で儲けるとか通話料で回収するとか，業界の独特の仕組みがあるのはわかるのではあるが，私の印象としては，最先端の技術を凝縮した電子機器がこのように不当な(私の感覚として)安値で手に入る事自体が釈然としない．早過ぎる機種の変更や安易すぎる同工異曲の製品の氾濫は，それを使う人々の意識も知らずに麻痺させてしまう．

そのような電子機器の氾濫の中で育ってきた若い人達は，その原理や中身については全く興味を示さないが，価格には非常に敏感である．中身を知らないものにとっては，往々にして表面に現われた価格がその価値をきめてしまう．また，ヒットする製品が生まれると，各社，右倣えで似たような製品が氾濫し，開発者の創意工夫や誇りのようなものを想像させるような製品が希少な状況においては，電子製品の開発は，使い捨ての技術のようなイメージが形成されるのではないだろうか．若者を取り巻く電化製品・電子機器の氾濫が，逆に技術系，特に電気・電子系学科が敬遠される一つの原因になっているのではないだろうか？

本来，子供は理科に興味があり，私のような世代は昆虫採取や機械いじりのようなことを日常の遊びして楽しんできたが，どうも近頃の状況はだいぶ違うようである．一昔以前ならば，壊れたら修理をして使うということが当たり前であり，最終的には直せなくとも，一応，中身を開いて調べてみるということは日常的であったように思う．そのような使い捨てではない日常の中で子供は，壊れた機械をいじったりしてその中身に触れることによって，科学や技術に漠然とした畏敬の念を抱き，そしてそれを職業とすることに憧れを抱いたものであった．また電気・電子系で私くらいの年代から上の世代では，かつてはラジオ少年だった人も多かったが，そのような人種も今や絶滅危惧種である．

振り返って，私の専門とするレーザーの業界をみると，大学では今やレーザーのハードを専門とする研究室は少なく，レーザー装置を手作りできる若手も絶滅危惧種になりつつある．工学部の中でも，電子・電気系にくべれば光分野はまだ健闘しているとの意見も聞こえるが，誰でも購入できる製品化された装置を用いた身近な応用研究ばかりに気を取られていては，真に光の時代を背負う若者は育ってこないのではと危惧している．

† (独)理化学研究所 緑川レーザー物理工学研究室（〒351-0198 埼玉県和光市広沢2-1）
† *Laser Technology Laboratory, RIKEN, 2-1 Hirosawa, Wako, Saitama 351-0198*